

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 全力！ ICHIOKA**～全日制普通科（単位制）単位制による進路実現への取組み 100%、伝統の自主活動への取組み 100%による中核人材の育成～
- 多様性を理解し、主体的に判断し、協働できる力をもった生徒を育てる。
- 1 少人数授業を特色とする全日制普通科（単位制）と進学講習で、一段高いレベルで希望の進路を実現
 - 2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じて自分で判断する力、自分で考えて行動する力のある生徒を育てる
 - 3 学校行事と自主活動を通じて、創造する力と心の豊かさを育む

2 中期的目標

- 1 少人数授業を特色とする全日制普通科（単位制）と進学講習で、一段高いレベルで希望の進路を実現
 - (1) 生徒が安心して国公立大学をめざすことを選択できる環境を実現する。
 - ア 授業と、講習・個人指導・面談・懇談等とのバランスのとれた教育課程のマネジメントのもとに、すべての生徒の第一志望の進路を実現する。
 - イ 進学講習、勉強合宿、英語の資格試験等を計画的に実施し、第一志望の進路を実現する。
 - ウ 1・2年次において職業ガイダンスや履修ガイダンスを行うとともに、生徒が自己理解を深め自分自身の進路に展望をもち、次年度の適切な履修決定を行えるよう支援する。
 - エ 進路ガイダンス室の機能を高め、一人ひとりの生徒の進路決定、第一志望の進路の実現の支援を行う。
 - オ 3年次においては、模擬テスト等のデータを活用した進路検討会を行い、一人ひとりの生徒の状況に合った進路決定を支援する。
 - カ 全日制単位制が一段高いレベルで希望の進路を実現できる特色ある課程であることを発信し、中学生の進路選択に資する。
 - ※ 2020 年度に、国公立大学及び難関私立大学の現役合格数の割合を卒業者数比で 80%にすることを目標とする。
 - (2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。
 - ア 思考力・判断力・表現力を育むことをテーマとした公開授業及び授業研究の機会を設け、教員の授業力を高めるとともに、学校全体の授業力を高める。
 - イ 進路指導や学力向上の特色ある取組みや先進的な取組みを行っている学校を訪問し、その取組みを報告研修で共有し、実情にあわせて学校経営に反映する。
 - ※ 2020 年度に、授業アンケートの有益感の指標を 3.2にすることを目標とする。
 - (3) 安全で安心な学校づくり
 - ア 学年初めの早い時期に全生徒の面談を行い、担任・学年団として生徒状況の共通理解を形成し、適切な支援と不登校の未然防止を図る。
 - イ 担任会、学年会、職員会議で、生徒情報の共有と共通理解の形成を図り、学校全体で一人ひとりの生徒への適切な支援を行う。
 - ウ 生徒の欠席遅刻状況を「見える化」できるシステム・仕組みを整備し、不登校など支援の必要な生徒への迅速で適切な初期対応を行う。
 - ※ 2020 年度に、遅刻、欠席、不登校の対在籍生徒比率を、平成 29 年度比で 25%減とする。
- 2 自主活動及び伝統の部活動と、学習の主体的な両立を通じて自分で判断する力、自分で考えて行動する力のある生徒を育てる
 - (1) 部活動と主体的な学習が両立できる環境の整備
 - ア 安全・自主的自律的・円滑に部活動が運営されるよう適切な活動時間の設定や指導者の確保などの環境整備と支援に取り組むとともに、授業外の学習時間の確保と自学自習の習慣の確立を図り、部活動と学習の両立を実現する。
 - イ 部活動を通じて高い目標を掲げ、諦めず力を尽くす姿勢を獲得し、第一志望の進路の実現につなげる。
 - (2) 部活動を通じて自分で判断する力、自分で考えて行動する力のある生徒を育てる。
 - ア 部活動を通じて、100%の力を発揮できる心身の育成を図る。
 - イ 部活動において、中学生との交流や地域の行事への参加をすすめ、地域に愛される学校づくりと部員の自己肯定感の育成をすすめる。
 - ウ 市岡高校の部活動で育成される力及び生徒が自主的自律的に運営を行っている市岡高校の部活動の魅力中学生に向けて発信する。
 - ※ 2020 年度に、部活加入率 90%にすることを目標とする。
- 3 創造する力、心の豊かさを育む学校行事
 - (1) 総合的な学習の時間の充実
 - ア ユネスコスクールとしての国際、地域、防災、人権の学習を通じて多様性を理解し、協働し自主的・自律的に物事に取り組む力を育成する。
 - イ これまでの総合的な学習の時間の取組みをまとめて学校としてのアーカイブを作成し、総合的な学習の時間の学びを、より効果的に行える仕組みを確立する。
 - (2) 学校行事、特別活動等における生徒の育成。
 - ア 体育祭、文化祭、合唱コンクール等を通して、組織において自主的・自律的に協働できる生徒を育てる。
 - イ 文楽・落語・能狂言などの古典芸能鑑賞、クラシック音楽鑑賞等の特色ある行事を通して、芸術・芸能に関する理解と豊かな感性を養う。
 - ウ オーストラリア語学研修やコミュニケーションツールとしての英語の運用能力を高める機会や大学等が実施するコンテストなどへの参加・出品を推奨し、多様性の理解の深化、表現力・コミュニケーション能力及び生徒の達成感や自己肯定感の育成を図る。
 - エ 各教科における校外の機関や団体との連携を強化し、生徒に有益な活動を推進していく。
 - オ 日本の産業の最先端や、持続可能な開発や発展など、ユネスコスクールにおける多様性の理解の一端として、修学旅行を実施する。
 - ※ 2020 年度に、学校行事、自主活動に関する肯定的評価を 90%にすることを目標とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>・学校への満足は 88%、学校が楽しいは 82%と高く、前年よりも向上している。</p> <p>・体育祭、文化祭、合唱コンクール等への取組みの肯定的評価は 93%と高く、前年よりも向上している。部活動についての肯定的評価も 86%と高く、前年よりも向上している。</p> <p>・総合的な学習の時間（国際、人権、防災、地域）の評価も肯定的評価が 92%で最上位評価が 41%と極めて高く前年よりも向上している。</p> <p>○本校の掲げる多様性の理解、主体性、協働する力に関する取組みの評価は高い。</p> <p>・生徒の授業の分かりやすさ、工夫の肯定的評価は約 75%で概ね良好だが、保護者の評価は生徒より 10 ポイント低い。</p> <p>・行事や総合的な学習の時間は生徒との差が少ないことから、授業については保護者にあまり話をしていないと思われる。</p> <p>○学力と授業への取組みを更に前進させていきたい。</p>	<p><部活動と学習の両立について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活の性格によっては試合等があるため練習時間を 4 時間 2 時間と縛りをつけるのはどうなのか。 ・全国的にこの流れ。私立は別。私立への強制力はないので時間はそのまま。公私で時間が異なるので指導者は困る。働き方改革の趣旨はわかるが、矛盾を感じる。 ・運動部の部活に入ると部活を重視しなさい、という傾向がある。勉強したい・語学研修もしたい、でも部活優先になる。どちらかを選ばなければならない。部活だけでなくほかの興味のあることにも時間をさきたいなら、両立ができるようにしてもいい。 ・自習教室は 8 時まで開いてほしいが、安全上の問題も考えると仕方ない。 <p><行事計画の見直しについて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事それぞれにいきさつがある。初期の目的を達成するものであれば続けるべき。 ・むやみやたらに削っていくと教育方針どうなっているのという疑問にもなってしまう。 ・時間外勤務の件もふまえてご検討をお願いする。 ・ストレスチェックは評価指標としない方がよい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 少人数授業を特色とする全日制普通科（単位制）と進学講習で、一段高いレベルで希望の進路を実現</p>	<p>(1) 生徒が安心して国立大学をめざすことを選択できる環境を実現する。</p> <p>(2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力をはぐくむ授業を行う。</p> <p>(3) 安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) ア 進学講習、勉強合宿等を計画的に実施し、第一志望の進路を実現する。</p> <p>(2) ア 生徒の「英語を話す力」への意識を高めるために、1 年生を対象に外部テストを実施する。 イ 先進的な取組みを行っている学校を訪問し、その動向・取組みを報告研修で共有し、実情にあわせて学校経営に反映する。 ウ 教材教具の整備を図り、多様な教科・科目の授業内の充実を図る。 エ 学級文庫の充実を図り、朝の読書を通じて、思考力の基盤となる広い教養、読解力を要請する。</p> <p>(3) ア 学年、保健室、教育相談、生徒指導担当者の情報共有の機会を定例で設け、生徒情報を共有するとともに、適切な生徒への関わりと支援を行う。 イ 遅刻指導の方針をより明確にするとともに、遅刻と欠席のない自律的な生活生徒の育成を図る。</p> <p>(4) 行事計画プロジェクトチームを設置しカリキュラムマネジメントを進めるなかで、超過勤務の縮減を図り、教職員がゆとりを持って生徒と向き合える環境を整備する。</p>	<p>(1) 入学時の生徒の学力と過去 5 年の実績を考慮し、下記の人数を目標とする。 <現役> 国立大学 30 名 難関私立大学 150 名</p> <p>(2) ア 英語を「話す力」の習得への意識の向上に関するアンケート項目の肯定的回答 3 分の 2 を目標とする。 イ 報告研修の実施と 2020 年度学校経営計画への反映 ウ 年々向上してきた生徒授業アンケートの「授業分析」の項目の前年度評価 (3.11) の維持。 エ 朝読関連の意識調査の肯定感の「知識の幅が広がった」(3 年次生の過去 2 年の平均：23%) 「勉強に役立った」(15%) の向上。</p> <p>(3) ア 前年度減少した不登校（年間 30 日以上欠席）が再び増えないことを目標とする。 イ 前年度 10%程度減少した遅刻、欠席を、さらに前年比 10%減少することを目標とする。</p> <p>(4) 過去 2 年間で約 20% (6 時間) 縮減した超過勤務時間の維持・削減を目標とする。</p>	<p>(1) 1 月 10 日現在 <現役> 国立大学 2 名 難関私立大学 11 名 難関私学の定数管理の厳格化の影響等を考慮しおおむね達成と評。 (○)</p> <p>(2) ア 英語を「話す力」の習得への意識の向上に関するアンケート項目の肯定的回答約 57%。動機づけとなった。初めてのアンケートであり、指標の設定に課題があった。達成と評価。(○) イ 11 月に 1 名が鳥取県、もう 1 名が滋賀県と福井県の先進事例を報告。(○) ウ 生徒授業アンケートの「授業分析」の評価 3.18。昨年比 0.07 アップ。 第 1 回よりも第 2 回が 0.1 ポイントアップ。改善の取組みが進んだ。(◎) エ 朝読の意識調査の肯定的回答「知識の幅が広がった」：36%、「勉強に約立った」：15% (◎)</p> <p>(3) ア 不登校が 34%減少。 生徒相談委員会を中心とした取組みの成果と評価している。(◎) イ 10 分以内の電車の延着による遅刻の扱いを厳しくした。実質 22%減。(○)</p> <p>(4) 超過勤務が約 2 時間 (6%) 減少。 生徒と向き合える時間が増えた。(◎)</p>
<p>2 自主活動及び伝統の部活動と、学力的な両立を考慮して行動する</p>	<p>(1) 部活動と主体的な学習が両立できる環境の整備</p>	<p>(1) ア 生徒が自主的・自律的に部活動を運営できるよう顧問が支援を行うとともに、ノークラブデイの着実な実施など、授業外の学習時間の確保と自学自習の習慣の確立に学校として取り組む。 イ 部活動と学習活動が両立できる環境及び部員の人数により差がつくことのない活動環境を実現し、加入率 90%を目標に部活動を一層活発にする。 ウ 学習習慣の確立のために学校行事として自学自習合宿を実施し、生徒の自学自習の習慣の確立の支援及び学習活動の核となる集団の育成を図る。</p>	<p>(1) ア ・1 年生 9 月の授業外学習時間の前年比増加を目標とする。(H29 年度 49 分) ・2 年生 9 月の授業外学習時間の前年 (1 年の時) からの増加を目標とする。 3 年生 9 月の授業外学習時間 4 時間を目標とする。(参考 H29 年 12 月時点 5 時間 27 分) イ 加入率 (H29 年度 87%) の維持。 ウ 自学自習合宿の実施。参加生徒の有効感 75%を目標とする。</p>	<p>(1) ア 1 年生 55 分 2 年生 1 時間 35 分 3 年生 4 時間 40 分 目標は概ね満たしているが、引き続き工夫していきたい。(○)</p> <p>イ 部活動加入率 86%。前年並み。(○) ウ 自学自習合宿の実施。参加生徒の有効感 93%。 参加者の 3 人に 1 人がその後時間管理手帳を活用して、自学自習に取り組んでいる。(◎)</p>

府立市岡高等学校

<p>3 創造する力、 心を豊かさ を育む学校行事</p>	<p>(1) 総合的な学習の時間の充実</p> <p>(2) 学校行事、特別活動等における生徒の育成</p>	<p>(1) ア 総合的な学習の時間について、生徒の成長が顕著にみられた取組み及び新たな取組みについて職員会議で報告研修を行い、成果の共有を通じて学校として質の向上を図る。</p> <p>(2) ア 体育祭、文化祭、合唱大会を通じて、協働する楽しさを感じさせ、協働する力を育成する。</p>	<p>(1) ア 生徒アンケートによる効果の検証 ・記述回答による生徒の成長、実感、肯定感の把握。 ・肯定的な回答（75％）を目標とする。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断の体育祭等に関する項目の肯定的評価90％の維持を目標とする。</p>	<p>(1) ア・障がい者理解、防災（大津波警報）の取組みで高い意欲、実感が見られた。 ・学校教育自己診断の総合的な学習の時間の項目の肯定的回答が91％。成果を総合的な探究の時間に繋ぐ。(◎)</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断の体育祭等に関する項目の肯定的評価93％。生徒に協働する楽しさを感じさせつつ、協働する力が育成できている。(◎)</p>
---	--	---	---	--